

科目担当者氏名 (ふりがな) なかにし・とおる/まるやま・まこと 中西徹/丸山真人		科目担当者連絡先(メールアドレス)
連絡責任者氏名 (ふりがな) いちのかわ・やすたか 市野川容孝		科目設置機関名 東京大学大学院総合文化研究科
授業科目名 国際社会科学特殊研究Ⅲ	科目認定番号 TOK X - 000101-0	受講者数 3名

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など： 本調査では、予備調査の一貫として、学生たちに農家でのホームステイ等を経験させ、調査内容についても、学生たちが主体的に決定した。また、調査結果については、調査対象の住民に対して現地で報告会を開催し、フィードバックをおこなった。調査に対する学生のコミットメント度は非常に高く、充実した調査実習がおこなえたと考える。

II. 調査の企画・設計(デザイン)

1. 調査のテーマ/領域： 「グローバル化のもとでの地域変容」(新潟県大和町調査)。地域住民の生活構造と意識に関するアンケート調査とインタビュー調査。

2. 調査の内容/概要： (1) 大和町での生活(住民相互のネットワーク、介護や育児の状況など)、(2) 「国際大学」に関する意識、(3) 市町村合併に関する、(4) 農業に関する見解、(5) 大和町の自然・環境に関する意識、(6) 森林の利用に関する意識。

3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)： 大和町役場の協力を得て選挙人名簿を閲覧し、同町民全体の中から20歳以上の男女800名を非系統的に無作為抽出。

4. 主な調査項目： (1) 大和町での生活(住民相互のネットワーク、介護や育児の状況など)、(2) 「国際大学」に関する意識、(3) 市町村合併に関する、(4) 農業に関する見解、(5) 大和町の自然・環境に関する意識、(6) 森林の利用に関する意識。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法： 主にアンケート調査(郵送)。加えて、森林組合・農協・広域連合等にて補足的な聞き取り調査。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2000年7月から12月まで。新潟県大和町。計29名(うち本授業履修者は3名)。

7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)： 質問票を計776名に送付し、そのうち回収数は399(51.4%)。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法： 各質問項目に関する単純集計およびクロス集計。

9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)： 詳細については下記報告書を参照されたいが、新潟県大和町の生活構造および意識について、初めての総合的かつ学術的な調査をおこなうことができ、その結果については大和町にて報告会を開催し、フィードバックをおこなった。

10. 報告書刊行の予定と概要： 次年度の調査結果とあわせて、東京大学教養学部関連社会科学研究室『新潟県大和町の暮らしとまちづくりに関する学術調査』(2003年2月、全264頁)として刊行した。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。